

特集 小笠東地区で活動する「そんだもんで東」の皆様にお聞きしました

「スマホで連絡を取り合って、出られるときに出演しているので楽しく続いていると思います」

「そんだもんで東」は、小笠東地区を拠点として、見守り活動、地域イベントの開催、防災マップ作りなど、地域のつながりをサポートするさまざまな活動を行っているグループです。

「そんだもんで東」は、どのようなきっかけで生まれた団体ですか」

民生委員として活動していた方々が、社会福祉協議会主催のふれあい広場や自治会行事、見守り活動などを通じて、地域と関わってきたことが原点です。平成23年の東日本大震災を経験し、「地域で支え合う仕組みが必要だ」という思いが強まり、菊川市の地域社会福祉協議会立上げの動きと合わせて活動が本格化し、「そんだもんで東」として現在まで活動を続けています。

団体名の「そんだもんで」は、この地域で昔から使われてきた言葉で、肩肘張らず自然体で続けていこうという思いが込められています。

「メンバー構成や、活動の様子を教えてください」

立上げ当初は7人でしたが、現在は16人が活動しています。男性6人、女性10人で、年齢層は70代が中心です。

参加は強制ではなく、「できる人が、できる時に」を合言葉に、スマートフォンで連絡を取り合いながら無理なく続けています。

高齢化に伴い、活動は少しずつ縮小していますが、防災マップ作り、福祉講演会、地の神様づくりなど、地域に必要な活動を大切に続けています。



市民と議会をつなぐ特集ページです。今回は、小笠東地区を拠点に地域づくり活動や防災活動で活躍する、「そんだもんで東」の皆様にお聞きしました。

「長く活動を続けてこられた秘訣や、心掛けていることは何ですか」

特別なことではなく、「みんなで協力し合い、仲良くやること」を何より大切にしています。無理をせず、出られるときに出るという形だからこそ、楽しく続けられていると感じています。安全面を考えて、夜間の活動は行いません。できる範囲で活動を続けることを心掛けています。

